

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2021年度 パフォーマンス向上会議情報(2022年3月3日(木)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年3月3日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【高性能多核種除去設備の圧縮空気供給装置除湿機(A)の動作不良について】 協力企業委託運転員が、現場/パトロール時、高性能多核種除去設備の圧縮空気供給装置除湿機(A)の本体に、異常を示す「赤」ランプの点灯を確認。 設備主管箇所にてランプ点灯の詳細をメーカーに確認した結果、除湿機の動作不良を示す点灯であるとの確認を得た。 当該除湿機(A)の停止操作の処置を実施。 予備の除湿機(B)が使用可能なため、系統運転は支障なし。 今後、当該除湿機(A)の分解点検を実施予定。</p>	GⅢ	3月1日
2	<p>【6号機電気品室空調設備の冷却器(B)の異常警報の発生について】 当直員が、6号機中央制御室において、電気品室空調設備の冷却器(B)の異常を示す警報の発生を確認。 調査の結果、当該冷却器(B)の圧カスイッチ(吐出圧力高/吸込圧力低)が動作している状況を判断して、当該空調設備の凝縮圧力調整弁の動作不良と推定。 その後、圧カスイッチをリセット後、当該冷却器(B)の再起動を行い、運転状態に異常なしを確認。 今後、当該空調設備の凝縮圧力調整弁の点検を実施予定。</p>	GⅢ	2月27日
3	<p>【既設多核種除去設備の塩酸供給ポンプ(B)の入口配管塩ビ製フランジ部からの漏えいについて】 設備主管箇所が、既設多核種除去設備の塩酸供給ポンプ(B)点検後の運転圧による漏えい確認時、入口配管の塩ビ製フランジ部からの漏えいを確認。 当該塩ビ製フランジ部を規定トルク値で増し締めした際、塩ビ製のフランジ箇所の割れを確認。 原因は、締めトルクにおいて基準の値で締めていたものの、経年劣化により脆くなっていた箇所に今回の増し締めが加わり、破損したものと推定。 応急処置として、割れ箇所に袋養生を実施し、当該ポンプ(B)の前後弁を全閉とし、漏えい停止を確認。 予備の塩酸供給ポンプ(A)が使用可能なため、系統運転は支障なし。 今後、当該フランジ部を含めた塩ビ製配管を交換予定。</p>	GⅢ	2月18日